

# 研究の窓

# 「科学者の不正行為」出版までの道のり

山崎茂明教授の専門は科学コミュニケーション分野で、特にレジャーシステム・研究評価を研究対象としている数少ない研究者の一人です。その研究内容について、「研究活動というは一般社会からはなかなか見えにくい分野ですが、科学論文を計量的なデータとして分析することで、非常にわかりやすくなりますし、情報公開という社会の流れにも則したものになります」と端的に説明してくれました。最近では発表倫理や科学の不正行為にも強い関心を持っているとのこと。



文学部図書館情報学科教授  
**山崎茂明**

【学歴】  
1971年 早稲田大学文学部社会学科卒業  
1985年 慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学博士課程単位取得満期退学  
博士(図書館情報学)学位取得(愛知淑徳大学)  
2001年  
【職歴】  
1982年～1986年 東京慈恵会医科大学医学情報センター助手  
1986年～1998年 東京慈恵会医科大学医学情報センター講師  
1998年～1999年 愛知淑徳大学文学部助教授  
1999年～ 愛知淑徳大学文学部教授  
【受賞】  
1998年度科学技术情報振興賞学術賞受賞  
【HPアドレス】  
<http://www.aasa.ac.jp/people/shige/yama2.html>

**今**年の3月、「科学者の不正行為」(丸善)という著書を発表した。4年前ほどから、研究世界のスキャンダルとしてではなく、「このテーマと正面から取り組みたいと考えてきた。この出発点は、英国医師会雑誌の委員長であった「ドク博士」の著書「Fraud and Misconduct in Medical Research」に見出した。日本人科学者の事例への関心からである。米国健康福祉省

情報自由局からの調査レポートの入手、ワシントン郊外にある研究公正局への訪問、ジョージタウン大学にあるケネディ記念倫理研究所図書館や英国ウェルカム財団での調査、さらには、この問題に関わる国際会議への参加等を経て、内容が形成されていた。科学研究活動は、最終的な成果として科学論文を産み出す。論文内容は、専門家による審査を経たものであり、信頼され、社会へと還元されていく。「発表なくして科学は存在しない」だけに、科学論文は研究活動を映す鏡とみなすことができる。それだけに、科学者の不正行為に着目して発表倫理を検討することで、この科学活動の

問題を明らかにできると考えている。21世紀に入り、科学のグローバル化、シブシブ情報公開の流れ、情報技術環境の進展、研究評価への関心増、といった科学研究を取り巻く状況は大きく変化し始めた。この大きな流れの中で、科学界は、新しい研究発表倫理を確立する時期に立ち至っている。**出版**にまで到達できたのは、テーマそのものがinterestingであったと同時に、さまざまな出会いと支援を受けることができたからだ。研究公正局のシート博士は図書館情報学で学位を取得しており、専門を同じくしていたことで助言や資料入手に協力してもらった。執筆中に疑問が



- 【最近3年間の著作リスト】  
 ・「Evidence-based Medicineを支援するための新しい情報源 とサービス」『情報管理』vol.42 1999年  
 ・「日本におけるランダム化比較試験文献の生産と流通」『臨床評価』 vol.27 1999年  
 ・「日本におけるEBMに適用できる文献の実態」『日本病院薬剤師会雑誌』vol.36 2000年  
 ・「医学中央雑誌の評価:EBMを支援する情報基盤となるために」『Journal of Library and Information Science』no.14 2000年  
 ・「科学の不正行為への生態学的アプローチ」『情報の科学と技術』 vol.51 2001年  
 ・「Scientific misconduct in Japan's life science research. In: Science Editing and Information Management, Ed.by C.J.Manson-Geoscience Infomation Society 1999年  
 ・「EBMのための情報戦略」(中外医学社) 2000年  
 ・「研究評価」(丸善) 2001年  
 ・「科学者の不正行為 捏造・偽造・盗用」(丸善) 2002年

生じ電子メールで回答してもらったこともあった。またまた仕事を完成させるためには、優れた図書館とライブラリアンとの出会いが欠かせない。その意味で、ワシントンのジョージタウン大学にあるケネディ記念倫理研究所の図書館の発見は重要であった。その蔵書数は2万1千冊、受入れ雑誌数は新聞を含め300誌でしかない。しかし、この図書館における、最も特徴となる情報資源は、ETHXファイルと呼ばれる12万件の現物資料ファイルである。学術雑誌、新聞、単行本のチャプター、一般雑誌、政府報告書、法令文書、レポートなど、さまざまな資料から形成されており、それらのコピー、現物、別刷などが分類されファイルされている。研究者は、ETHX目録データベースを検索したり、分類記号をたよりに直接ファイルを検索して、すぐに必要な資料を選択し効率的にプリントが入手できることになる。この図書館の価値は、文献記事単位でオリジナル資料のファイルを維持していることと、その目録であるETHXの編集にある。

**研究**は問題解決そのものであるが、同学の人も優れた情報源との出会いがなければ展開できない。また、研究を前向きに進めていくかぎり、世界は広くおもしろい出会いに満ちているともいえる。ケネディ記念倫理研究所の小さな図書館で、静かな時間を過ごしたものである。

# Academic Libraly 著書紹介

著者自らが近刊を紹介いたします。

小中学校の英語テキストを監修・執筆  
コミュニケーション学部  
言語コミュニケーション学科教授  
松本青也

この4月から総合的学習が本格的にスタートしました。それぞれの学校でいろいろな取り組みがあるようですが、小学校の中には、国際理解に関する総合的学習に英語を取り入れるところが増えてきており、新しく登場した小学校向けのテキストにも期待が集まりそうです。中学校用の新しい教科書は、会話が吹き出しになっていたりして親しみやすさに工夫あり、初めて習う英語に楽しく取り組みそうです。



「Sunshine Kids:Book1」監修  
A4判/63ページ/開隆堂出版/470円(ほかに指導書、CD、ビデオ、絵カードのセット14,700円)/2001.8発行  
新学習指導要領に対応して国際理解教育の一環として行われる小学校での英語学習。音声を重視し、児童の発達段階に応じてコミュニケーション能力を育成するための教材や活動を豊富に取り入れた。



「Sunshine English Course1~3」共著  
B5判/各巻115~119ページ/開隆堂出版/301円(官報告示価格)/2002.2.5発行  
文部科学省検定英語教科書。新学習指導要領に対応して言葉の使用場面と言葉の動きを重視し、実践的コミュニケーション能力を育成する一方、異文化相互理解を通して地球市民を育てる観点から題材が選ばれている。



「虚弱な高齢者のためのQOL」(改訂二刷)  
教養教育センター教授 初谷良彦(三谷嘉明らと共訳)  
A5判/480ページ/医歯薬出版/5,700円/2001.6.20発行  
アメリカの著名な高齢者研究者ピレン、ロウらが急増する「虚弱な高齢者」のQOL(生活の質)を高める上で検討を要する諸領域、すなわちQOLの定義、QOLを高める環境、家族、自立等々を包括的にまとめた理論的・実践的な論文集を翻訳したもの。

「ウラジーミル・ナボコフ『ナボコフ短編全集』」  
文化創造学部助教授 杉本一直(共訳)  
A5判/508ページ/作品社/3,800円/2001.7.10発行  
「ロリータ」や「青白い炎」などの長編小説で知られる亡命ロシア人作家ウラジーミル・ナボコフ(1899-1977)が生涯に残した短編小説64編をすべて邦訳したもの。先ごろ発足した日本ナボコフ協会に集う英文学者とロシア文学者によるコラボレーションである。

「子どもの文化を学ぶ人のために」  
文化創造学部助教授 酒井晶代(共著:川端有子、戸苅恭紀、難波博孝編)  
四六判/270ページ/世界思想社/1,900円/2002.4.1発行  
「あゆみ」「みる・きく」「よむ」「かかわる」「あらわす」の全5章から、子ども文化を展望した入門書。著者は、賢治童話のイラストレーションについて比較考察した授業実践を交えながら、「描かれた<作品論>を読む-宮沢賢治『注文の多い料理店』の絵本化をめくって-」を執筆している。

「一色の民話」  
教養教育センター教授 堀尾幸平  
A5版/184ページ/一色町教育委員会/非売品/2001.11.1発行  
愛知県幡豆郡一色町に伝えられる民話、昔話、伝説等を発掘、採話、文章化して全31話をまとめた。著者が監修と編集・全文の指導に当たった。更に「解説」と民話「重吉少年」「三河地震」を執筆した。民話の語られた期間を「むかし」から昭和20年(終戦)までとしている。